

Title	ソローの耳とヘレン・ケラーの手：世界体験 / 音 音楽 音楽風景 / モチーフと方法、アプローチ
Sub Title	
Author	山岸, 健(Yamagishi, Takeshi)
Publisher	三田社会学会
Publication year	2010
Jtitle	三田社会学 (Mita journal of sociology). No.15 (2010. 7) ,p.132- 133
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	2009年度大会報告要旨
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA11358103-20100700-0132

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

ソローの耳とヘレン・ケラーの手

—世界体験／音 音楽 音楽風景／モチーフと方法、アプローチ—

山岸 健

人間は行動し、行為する生活者である。しなやかな感性と豊かな想像力、人間と世界についての深い理解においてこそ、人間の独自性とアイデンティティが明らかにされる。人間の生活は絶え間なしに築き上げられていくような前進的で想像的なせいかつなのであり、しなやかな感性と豊かな想像力に裏付けられた人間的世界の構築が、日々の生活の場面で求められ続けているのである。

山岸美穂

人生の旅びと、人間、私たちの誰もが、自己自身の身体と感覚、想像力によって、世界に住みついているのである。いずこにおいても、いつでも人間は、環境と対話しながら生活し、生存しているが、環境を自己自身の世界たらしめるために、また、共同的で社会的な人間的世界を築くために、日々、努力がつつけられているのである。

日常的世界は、歴史的社会的世界であり、また、風景的世界としてイメージされる。プラクシス（行為・実践）とポイエシス（制作・創造）は、日常的な人間の営みなのだ。

フランス語、サンス **SENS**、ふたつの意味群がある。感覚・意味という意味群、そして方向という意味群——意味づけるということは、方向づけるということなのである。エマニュエル・レヴィナスは、感覚は意味を持っている、という。感覚を活性化させることは、人間の生活と生存において、人間と環境／世界との触れ合いと交流において重要なことだといえるだろう。他者との、大地や風景、音風景との、作品などとの触れ合いと対話、コミュニケーションは、創造的な日常生活と前進的な人生において、ほとんど休みなしに必要とされるのである。

人間——理性、知性、感性そのもの、だが、日常生活と人間の生存、実存においては、感性こそ特別に注目される人間の資質と力ではないかと思う。

『森の生活』で知られるソロー、彼の耳と感性、人生と生活へのアプローチは、注目に値する。この作品には、音と題されたパート、文章がある、サウンドスケープ、音風景の研究において、スタートを飾るエッセーとしてソローのアプローチと方法（道）は、重要な道しるべなのである。

ヘレン・ケラーの生活と人生、彼女の生活史と世界体験は、感性行動学や音へのアプローチにおいて見逃すことができない事例である。接触体験と振動体験、手によって、身体、全身によって、ヘレン・ケラーは、光とトポス、居場所、ステージを、また、道を確認しながら見出しつづけていたのである。＜水＞のヘレン・ケラーだ。

私たちの一人、一人が、自己自身の生活史と記憶、多元的現実と一体となった世界体験によって、他者、人びととの触れ合いや共同生活において、意味のなかで、意味世界で人生の日々を築きつづけているのである。こうした世界や多元的現実、人間、自然、文化、社会へのアプローチにおいて、〈音〉は、意義深い視点、パースペクティブ、方法なのである。

※この報告は、社会学、感性行動学、サウンドスケープ研究の研究者、山岸美穂との共同の、日々の対話の中での研究報告である。

※エピグラフの出典——山岸美穂・山岸健『音の風景とは何か——サウンドスケープの社会誌』NHK ブックス 853、日本放送出版協会、1999 年、6 ページ。

(やまぎし たけし 慶應義塾大学名誉教授)